

社会教育機能としての舞踊Ⅱ

三原みどり

〈研究目的〉

身体活動への欲求が高まり、その重要性が社会的にも多数報告されている今日、人は舞踊と、どの様に関わりあっているのだろうか。

先の『社会教育機能としての舞踊』の継続として、本研究では舞踊情報の供給量と身体活動の状況を知ることが目的とした。

〈研究方法、対象〉

○方法 質問紙法

○内容

I 過去1年間に触れた舞踊、律動的美的運動

①種類 ②回数 ③動機 ④場所

II 身体活動への参加の実態

①参加人数の割合 ②種目 ③理由

III 舞踊に対する意識

○対象 (甲) 今回は生涯にわたって身体活動へ参加していく準備段階とも考えられる大学生を選んだ。

都市型 — お茶の水女子大学生 224名
(舞踊教育学専攻41名, 他専攻183名)

地域型 — 宇都宮大学生 130名
(保健体育専攻50名, 他専攻80名, 内男性52名)

〈研究結果〉

I-① 過去1年間に接した舞踊及び律動的美的運動の種類

図1

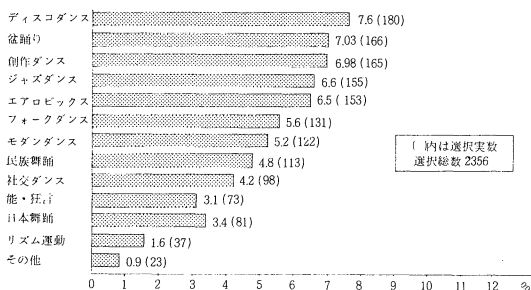


図1より、現在接することのできる舞踊、律動的美的運動の種類が豊富であることがわかる。

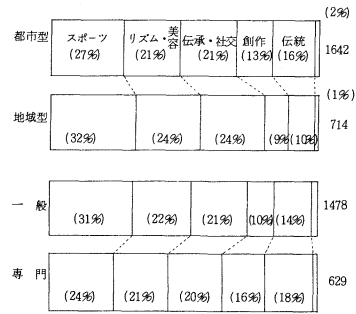
各々の舞踊、運動をその運動の深化に応じて、「スポーツ」、踊る楽しみを有する「リズム・美容」、「伝承・社交」、芸術表現として「創作」「伝統」の5つの領域にまとめ、(表1)都市型—地域型、一般—専門の差をみた。

図2より、一般学生が、「スポーツ」「踊る楽しみ」を基底とした舞踊に触れる機会が多いのに

表1

スポーツ	動く	新体操 フィギアスケート シンクロナイズドスイミング
舞	リズム・美容	リズム運動 エアロビクス ディスコダンス ジャズダンス
	伝承・社交	民族舞踊 フォークダンス 社交ダンス 盆踊り
踊	芸術	創作 創作ダンス クラシックバレエ 日本舞踊 能・狂言

図2



(甲) 解答は択一式。

対して、専攻学生は、「創作」「伝統」の舞踊にも触れている。又、都市型は、地域型よりも、「芸術系」の体験が増していることがわかる。

I-② 過去1年間に舞踊及び律動的美的運動を観た回数

回数については、全体的には年間「5~9回」が最も多い(39%)。一般学生と専攻学生では、専攻学生は、「10~14回」が52%、「15回以上」も、10%と、積極的に舞踊に接している。一般学生では「0~4回」が34%あり、地域型では「0~4回」が47%と、実際に舞踊に解れる機会が少ないことがわかる。又、地域型では、男子学生にも、同様の傾向がみられる。

(甲) S58.12~S59.11, 宇都宮市の文化活動の実態の一部は下図の通りである。

東京に比べて、機械の提供の少ない現状である。

> 宇都宮市文化会館(大ホール2,000人, 小ホール500人収容)
大ホール199本の公演のうち舞踊に関するもの
小ホール243本(バレエ発表会2, 子供ミュージカル1)
大ホール3本(バレエ発表会2, 子供ミュージカル1)
小ホール2本(バレエ発表会1, 美容1)
> S59職業別電話帳記載の舞踊研究所
日本舞踊5
バレエ3
ジャズダンス1

I-③ 体験のきっかけ

「自分から積極的に」の項目が、36%~52%を占め、積極性をみせている。「みよう」という自発性はかなりの学生が有していると判断できる。

I-④ 舞踊及び律動的美的運動に接した場

図3より、それぞれの場を、「マスメディア」「集う場」「学校施設」「学ぶ場」「鑑賞・観戦」にまとめ(表2), 全体に対する割合を示した。(図4)

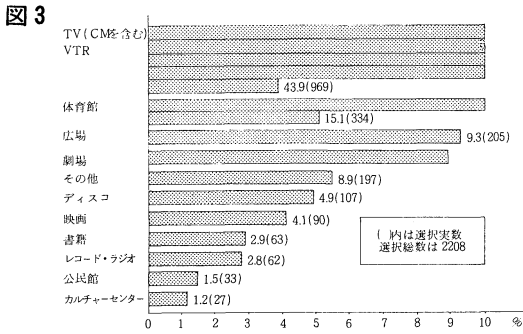
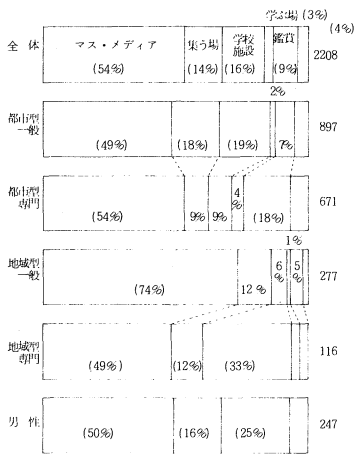


表2

マスメディア	TV (CMを含む), VTR 映画 書籍 レコード、ラジオ
集う場	広場 ディスコ
学校施設	体育館 運動場 講堂
学ぶ場	公民館 カルチャーセンター 新古場 劇場
鑑賞・観戦	競技場

図4



地域型の一般学生は、74%が、TV等のマスメディアによって情報を得ている様に、一般、専門を問わず、マスメディアを媒介とした体験は、解答の過半数を占めている。都市型専攻学生には、「劇場等で鑑賞する」の項目も18%を占めている。

Ⅱ-① 身体活動への参加の割合

「現在、定期的に身体活動を行なっているか」の問いに対して、男性、女性共、9割が、現在定期的に身体活動を行なっていると答えた。「定期的」の頻度は、「週1回」が最も多く、女性は、男性に比べて頻度が少ない。又、女性は「定期的に運動している」内、「授業でのみ運動している」割合は、32%である。

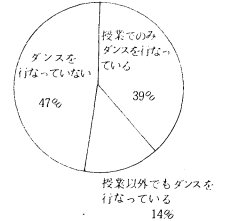
又、中学・高等学校においても、男女共9割が定期的、或いは不定期に身体活動を行なっていた。男性は女性に比べて、身体活動を行なう際の頻度が高く、授業以外でも運動している傾向がある。

Ⅱ-② 種目

9割以上が、定期的に身体活動を行なっている

中で、律動的美的運動が占める割合はどの程度であろうか。律動的美的運動は、女性では、球技の次に行なわれている。但し、定期的な運動体験が、大学の授業による割合が、1/3を占めている現状では、大学間の授業種目の差を考慮する必要があると思われる。そこで、律動的美的運動についてのみまとめてみると、授業でのみ行なっている者が39%、授業以外でも行なっている者は、15%に満たなかった。(図5)

図5 現在、定期的に律動的美的運動を行なっているか

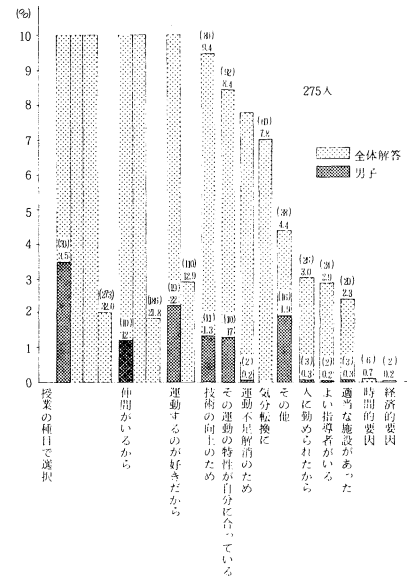


Ⅱ-③ 理由

次に、身体活動を、現在定期的に行なっている学生に対して、その理由を調べたところ、図6-aにまとめた様に、「授業の種目で選択」(32%)、「仲間がいるから」(21.8%)、「運動するのが好きだから」(12.9%)等の理由が上位にあがった。

又、授業でのみ運動を行なっている者も含めて自発的に運動を実践しない理由には、「時間がない」(34.2%)、「機会がない」(22%)等の解答が得られた。(図6-b)

図6-a 現在、定期的に身体活動を行なっている理由



Ⅲ 舞踊に対する意識

最後に、律動的美的身体活動、舞踊に対する意識についてまとめた。調査を行なった両大学では大学の授業において、ダンスが開講されているこ

